香港トラム100周年

ゴトゴトと、激動の歳月を走り抜け、
変わりゆく街を見つめ続けてきた路面電車

林澄美［文］ text : Kiyomi Hayashi

1930年代の中環。後ろの建物は旧アレキサンドラ・ハウス

1930年代に車体広告が登場。これは「請試森永朱咕叻総代理三井洋行」と書かれた森永チョコレートの広告

一世紀にわたり、香港の街を走り続けて来た香港の路面電車（トラム）。その古色蒼然とした外観からは想像も付かないが、1日平均24万人もの乗客を運ぶ、世界で最も忙しい路面電車といわれている。

香港のトラムは、今から100年前の1904年7月30日に運行が始まった。今では、2階立てバスや小型の乗り合いバスに挟まれて、香港の狭い通りを窮屈そうに走るトラムだが、開通当時は車も人もほとんどいない、広々としたのどかな通りを颯爽と走っていたことだろう。

しかし、おかしなことに、今よりもずっと静かな通りを走っていたにもかかわらず、開通当初は人身事故や走行妨害が多発したという。トラムが線路を走ると知らない人々が線路上を歩いたり、また、荷車を引く苦力たちが、線路の上は走りやすいと、勝手に線路を拝借したためだそうである。

開通当初はこんな困った問題に悩まされたが、トラムは香港の重要な交通機関として発展していった。

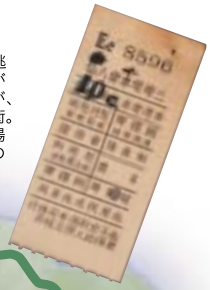
香港のトラムの魅力は、やはり世界でも珍しい2階建ての独特な車体にある。開通当初は1階建てだったが、乗客が増えたため、早くも1912年には2階建て車両が登場。当時はオープントップ式だったため、当然ながら「雨風をしのげない」と苦情が相次ぎ、6年後に2階部分に幌を付け、そして1925年に、現在のような2階建て車両に改良されたという。

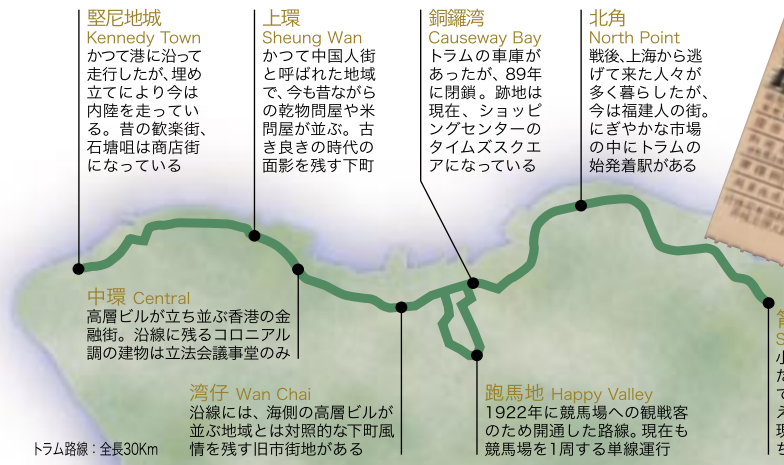
2000年に新型車両が登場したが、現在、運行している車両のほとんどが50年代に香港で製造されたもので、デザインは30年代の「第四代」と呼ばれる車両を踏襲している。運転席や客席、電気系統などに改良が加えられたが、トラムは半世紀以上も前の姿を留めている。

左写真が現在の中環で、右写真が1930年代の中環。二つの写真の左手に見えるのが、香港上海銀行本店。右手前の建物は、現在の立法会議事堂で、1930年代当時は高等法院だった。奥の中央に見える建物が、プリンス・ビルディング。姿はすっかり変わってしまったが、ビルは今も同じ名前が付いている

※過去の資料および切符の提供：Mr.Alan Cheung/張順光氏（Real Art Collection）

1940年代の3等席切符。運賃10セントの印が押されている





現在、最も古い車両が28番、120番、128番の3台だ。28番と128番はパーティーなどに利用される特別車に改装されている。120番は、50年代に香港の太古ドックで製造されたもので、木製の座席がそのまま残され、昔の車内の雰囲気がよく分かる。今も通常運行しているので、タイミングが良ければ乗ることができるだろう。

この100年の歴史の間には、もちろん変化もあった。現在はワンマン式のトラムだが、以前は車掌から切符を買うようになっており、また、座席は2階が特等で、1階が三等と二つに分かれていた（なぜか二等はない）。この二つの制度は70年代に廃止されている。

今でこそ運賃が2ドル（約30円）と安いが、かつては庶民の1食分の食費に相当するほど高い時代もあったという。おかげでトラムに跳びついて、タダ乗りする連中が横行したこともあった。しかし、こうした光景は過去のものとなった。

近年、トラムは地下鉄やバスに交通機関の主役の座を奪われ、80年代には「トラム廃止論」が出たこともある。しかし、香港の人々は、トラムの存続を望んだ。普段「トラムは遅い」とこぼす人々も、いざ眼の前から消えるとなると、やはり寂しくなったようである。

トラムは今年、100歳を迎えた。この現役の「アンティーク」は、これからも走り続けていく。

香港トラム100周年記念グッズ

香港トラム100周年記念切手
香港郵政局が2種類の記念切手を発行した。香港の各郵便局で販売中。詳細はhttp//www.hongkongpost.comで。

コレクター秘蔵のトラム葉書・復刻版
Real Art Collectionの張順光氏が集めた昔のトラムの絵はがきを復刻したもの。1セット12枚入りHK$50。注文は、TEL:+852-2331-3170 Ms.Mui まで。